

ブルク劇場のオペラ公演の中の《フィガロの結婚》

—1786/87 年の上演状況をめぐる試論—

松田 聡

モーツァルトの《フィガロの結婚》は 1786 年 5 月 1 日にウィーンの本ブルク劇場で初演されたが、同年 12 月の 9 回目の上演の後、89 年 8 月まで同地の舞台にかけられることがなかった。この上演の空白については、一般に、同じ 86 年の 11 月にやはりブルク劇場で初演されたマルティン・イ・ソレルの《ウナ・コーサ・ラーラ》の大成功がその主な要因であったと考えられている。しかし、それらの初演された 1786/87 年のシーズンにおけるブルク劇場のオペラ公演全体を視野に収めるならば、そのような考え方は成り立たなくなる。本稿は、当時のオペラ公演の制度に関する研究の一環として、この問題を扱った。

当時のブルク劇場におけるオペラ公演は、いわゆる「レパートリー・システム」が採用されていたが、特に 1786/87 年に関しては、とりわけ多くの演目がかなり均等に上演された点に特徴が認められる。11 月以降も、極端に《ウナ・コーサ・ラーラ》に偏った公演日程が組まれたわけではなく、《フィガロの結婚》の上演頻度にも特に大きな変化は見出されない。むしろ、このオペラが 12 月の上演をもってシーズン最終となったのは、単に次の上演の番が回ってくる前にシーズンが終わったため、と考えるほうが無理がない。

一方、次シーズンに上演がなかったことについてだが、このシーズンは開始時に新たな演目が集中的に上演されており、《ウナ・コーサ・ラーラ》も最初の 4 ヶ月間は舞台にかけられなかった。そして、そのようなレパートリー刷新の要因として考えられるのが、それまでブルク劇場において中心的なソプラノ歌手として活躍してきたナンシー・ストレースが、シーズンの移行期にウィーンを去ったことである。《フィガロの結婚》におけるスザンナが、ストレースの能力を活かすべく書かれた難しい役であることを考えれば、このオペラがしばらく上演されなくなった理由も、そこに求めることができるのである。